

# 箱根町・真鶴町 [9月19日告示／24日投票]

箱根町並びに真鶴町の町議会議員選挙が9月19日告示・24日投票で行われる。

公明党としては、それぞれ2名の現職を公認し、全員当選を目指す。公認予定候補者のプロフィールは次の通り。

## 箱根町議会議員選挙 (定数／14)

豊かな自然環境と調和した暮らしやすい箱根町に!



まちに活力を! 安心して子供を産み育てる社会環境を推進します!



## 真鶴町議会議員選挙 (定数／11)

皆様の“声”を町政に届けます!



人と自然を活かす、まちづくり!



### 川端よしあき (現)

観光の振興と火山防災強化を促進。箱根町観光プランに、外国人の誘客施策を推進した。また、小型家電リサイクル(携帯・パソコン等)の回収ボックスを本庁舎玄関に設置するなど環境保全活動にも力を入れる。

県本部幹事／副総支部長／町議7期／小田原(現・神奈川)衛生学園専門学校卒／67歳

### 村野ゆきこ (現)

胃がんの原因と言われているピロリ菌の検査を検診に導入、予防接種や子育ての記録がスマートフォンから行える「まなっこ手帳」(電子母子手帳)や育児サポートが必要なお母さんを訪問し、家事や育児のお手伝いをする「産後ケア事業」の実現に尽力。

支部長／町議3期／御殿場西高校卒／51歳

### いたがき由美子 (現)

出産育児一時金の受取管理制度を実現し、出産費用の負担軽減を推進。子育て中の親子が気軽に交流できる「子育てサロン(まなっこひろば)」の開設に尽力。国や県と交渉を続け、真鶴駅跨線橋のエレベーター設置を実現。

支部長／町議2期／栃木県立大田原女子高校卒／64歳

### 田中しゅんいち (現)

津波ハザードマップの全戸配布や、事故抑止力強化のため大道通りの路側帯のカラー舗装を実現。災害に強い、安心して暮らせる町の実現を目指す。国や県と交渉を続け、真鶴駅跨線橋のエレベーター設置を実現。

副支部長／町議1期／創価大学(通信教育)経済学部卒／66歳

## 改正刑法が施行

# 性犯罪、断じて許さない。 被害者の声受け、公明が強力に推進。

## 改正刑法のポイント

**強姦罪の名称を「強制性交等罪」に変更。被害者に男性も含め、性交類似行為も対象に**

**強姦罪の法定刑の下限を懲役3年から5年に、強姦致死傷罪は懲役5年から6年に引き上げ**

**強姦罪や強制わいせつ罪などの「親告罪」規定を削除**

**親などの「監護者」が18歳未満の者に性的な行為をすれば、暴行や脅迫がなくても罰する**

先の通常国会で成立した、性犯罪を厳罰化する改正刑法が7月13日に施行された。この法改正は性犯罪の被害者による切実な訴えが結実したもので、公明党も会期内での早期成立を強力に推進してきた。性犯罪に関する規定の抜本的な見直しは、1907年に現行の刑法が制定されて以来、初めて行われた。公明党は、性犯罪の厳罰化と被害者支援の充実に一貫して取り組んできた。2004年には、集団強姦罪の創設などを柱とする改正刑法の成立を推進。その後も、性犯罪の実態に合わなくなっている量刑の見直しなどを求めてきた。

被害者支援の充実では、党女性委員会が発表した「女性の元気応援プラン」や、自民、公明両党によるプロジェクトチームの提言でも、支援拠点となるワンストップ支援センターを全都道府県に1カ所以上整備することなどを政府に要請してきた。今回の刑法改正では、「被害者に寄り添う法律でなければ意味がない」との姿勢で、被害者や支援団体との意見交換を重ね、特に男性の被害者が声を上げにくい事情なども考慮し、男性や性的マイノリティー(少数者)の被害者からも直接話を聞いてきた。

衆参の法務委員会で採択された付帯決議では、公明党の主張を踏まえ、ワンストップ支援センターの整備促進や、実態把握のための調査、男性や性的マイノリティーへの配慮などが盛り込まれた。



# 頑張るママを元気に

→ 公明県議、市議が開催に尽力・佐々木さんが参加へ



イベントに参加する佐々木県副代表ら(2017年6月17日)

6月17日、仕事、家事、育児と一人で何役もこなすママを応援するファミリーイベント「Beautiful Mother Park」(主催=同実行委員会、後援=神奈川県、横浜市こども青少年局)が2日間にわたって横浜市内で開催され、小さな子どもを連れた家族でぎわった。

公明党神奈川県本部の「スクスク子育てプロジェクト」(座長=佐々木さやか参院議員)のメンバーらも駆け付け、実行委員長の石原里奈子さんと開催を喜び合った。今回のイベントは昨年夏ごろ、中島光徳・公明党横浜市議が、都内で同様のイベントを主催していた石原さんから横浜市でも開催したいと相談を受けたことがきっかけで、関係部局や公明党県議の尽力により神奈川県も後援についた。

横浜スタジアムから神奈川県庁まで延びる、約400メートルの日本大通りが歩行者天国となり、赤ちゃんと一緒に楽しめるワークショップ形式のブースやリラクゼーション、美容、手作りアクセサリや雑貨などのお店が並んだ。横浜市の担当者は「日本大通りを貸しきっての子育てイベントの開催は今回が初めて」と語り、2日間の総動員数は15万人に上った。オープニングセレモニーでは、佐々木さんがあいさつに立ち、「お母さんは、いつも自分のことよりも家族のことを最優先に頑張っていると思います。お父さんは、きょうは照れないで、お母さんに『いつもありがとう』と感謝を伝えただけたら」と期待を寄せた。



平塚市立中原中学校を視察する上田県代表、佐々木県副代表ら(2017年7月26日)

## 学校トイレの洋式化を推進

県本部議会活動委員会が視察

7月26日、公明党神奈川県本部議会活動委員会(=浜田昌利委員長)は上田勇衆院議員(=県本部代表)、佐々木さやか参院議員(=同副代表)と共に昨年度にトイレの改修工事を行った平塚市立中原中学校を視察し、関係者と意見交換した。文部科学省が、昨年11月に発表した全国の公立小・中学校におけるトイレの状況調査によると、神奈川県は便器の洋式化率が58.4%で全国トップ。しかし、横浜市では洋式化率が72.6%、小田原市では29.3%と市町村によって差があることから、同委員会として災害時には避難所となる公立小・中学校のトイレ洋式化を推進してきた。

今回視察した中原中学校は、4階建てで各階に2カ所あるトイレを洋式化しただけでなく内装も改修。オストメイト対応トイレを設置するなどバリアフリー化も完了している。災害時には、児童だけでなく避難してきた地域住民の方も使用するため、設備の充実も必要となる。視察を終えた上田県代表は、「予算の確保も含めて、学校施設の整備にさらに取り組んでいきたい」と話した。



# 東京2020 オリンピック セーリング会場 江の島周辺の再整備事業を推進!



2020年東京オリンピック・パラリンピックまで残すところ3年。神奈川県内ではオリンピックのセーリング競技会場として江の島にある湘南港の利用が決まっている。江の島は、毎年100万人以上の来訪者があり、現在でも休日には駐車場待ちの車両が江の島大橋に連なり、渋滞対策が大きな課題となってきた。2016年、公明党神奈川県本部では観光振興に関するアンケートを実施し、国道134号線をはじめ江の島周辺の道路の渋滞を懸念する声が多く寄せられた。このことを受けて、同年の5月18日には石井国土交通大臣に対して、「江の島大橋及び江の島周辺の再整備に関する要望書」を提出。石井国交相は、「県の対応を踏まえて、必要な支援を検討する」と語った。

## 大臣への要望事項

1. 江の島周辺道路の渋滞緩和対策と整備
2. 江の島大橋及び江の島弁天橋の再整備
3. 藤沢駅周辺並びに小田急片瀬江ノ島駅周辺の再整備
4. 江の島内の駐車場及びトイレ等の整備とバリアフリーの整備



石井国交相に要望書を手渡す上田県代表、三浦県副代表ら公明党議員(2016年5月18日)

## 江の島大橋の三車線化が決定!!

江の島大橋は、1962年の竣工より50年以上が経過し、老朽化が懸念されてきた。また、島内の駐車場へ入るための道路となっているため、駐車場の満車をうけて休日には大渋滞を引き起こし、橋につながる国道134号線にまで影響を及ぼしてきた。こうした状況を受けて、昨年、県の5月定例会において、黒岩県知事が江の島大橋を現在の片道1車線から3車線化すると表明した。この事業には、公明党の要望を受けて国土交通省でも予算を確保。併せて車道部に自転車通行空間を確保する予定となっている。

また、江の島大橋に併設する歩行者専用橋「江の島弁天橋」についても、橋面舗装や照明塔などの改修を実施する方針で、来島者の円滑で快適な通行を図る。

## 湘南港のバリアフリー化を視察

6月12日、三浦信祐参院議員(=県本部副代表)ら公明党議員団は、東京オリンピックでセーリングの競技会場となる湘南港で、車いす使用時の船着き場の安全性を確認する全国初の実証実験を視察した。東京オリンピック・パラリンピックではユニバーサルデザインによる施設整備を進めていることから、今回、日本障がい者セーリング協会が実証実験を実施した。

視察した三浦氏も実際に車いすでスロープの上り下りを体験し、「障がいの方々が安心して競技に取り組める環境整備は政治、行政の重要な仕事である。」と語った。



湘南港を視察する三浦氏  
(2017年6月12日)



## 駐車場のリアルタイム情報を掲示 江の島大橋の渋滞緩和への取り組み



設置された駐車場満空情報電光掲示板

休日をはじめ、夏にかけて慢性的な渋滞を起こしてきた江の島では、これまで利用者が島内の駐車場の満車状況をあらかじめ知る手段がなかった。リアルタイムの駐車場情報がないために、島内奥に位置する「藤沢市観光協会 江の島駐車場」や「県営 湘南港駐車場」が空車となっているにもかかわらず、「江の島なぎさ駐車場」に利用者が集中してしまう場合や、島外の近隣駐車場が空いているのにもかかわらず、島内の駐車場に利用者が集中するなどしてきた。その結果、江の島大橋では車列が連なり、大渋滞を引き起こしていた。このようなことから、公明党藤沢市議団では2012年から議会でたびたび質問に取り上げ、この渋滞の緩和対策を一貫して主張してきた。

こうした公明党の働きかけをうけ、市や県では、2015年9月に、国道134号線の江の島に入る手前に、駐車場の利用状況がわかる「駐車場満空情報電光掲示板」を設置。公明党の主張が実現した。